

美容と健康の注目素材をクローズアップ

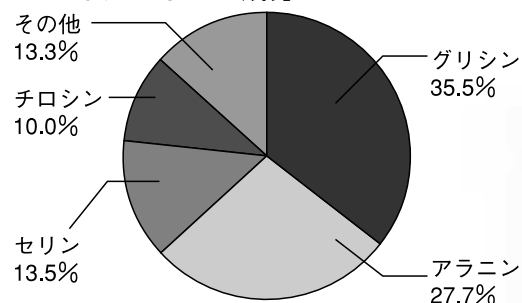
# シルクを食べる「フィブロイン」繭の力

カイコの体内にある絹糸腺と呼ばれる器官でつくられる、特別なタンパク質がシルクの原料だ。それを口から吐き出しながらカイコは繭づくりに励む。シルクの原料である繭から抽出したタンパク質成分「フィブロイン」には、健康美をサポート・ケアする力があるとして、近年食べるシルクも開発されている。21世紀の注目素材「フィブロイン」とはどのようなものなのか、クローズアップする。

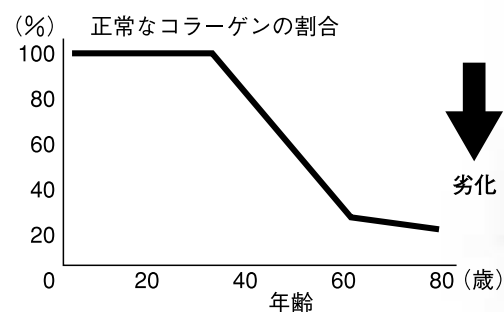


## シルクのタンパク質成分

### ■ フィブロインの成分



### ■ コラーゲンは年齢とともに減少、劣化する



新陳代謝は成長ホルモンによって促されるが、成長ホルモンは年齢と

**アミノ酸はサプリメントで補いたい**

分解する作用等の働きも認められている。「セリン」は表皮、爪、髪の毛をつくるシステインの基、健康で艶やかな髪や肌をつくる他、免疫力アップにも力を発揮することがわかっている。

# インナービューティー 健康美をサポートする「ファイブプロテイン」

## 40代からの

## シルクは着るから他分野へ展開

シルクの着物を着ているとカゼを引かない、肌が艶々してくる、よく眠れる、非常にパワフルになるなどといわれている。シルクは薄手のわりに保湿性がよいだけでなく、吸湿性と放湿性にも優れている。つまり、汗などの水分を吸うだけでなく、外部に放出する能力もあるので、冒険家だった故植村直己さんの下着はすべてシルク製品だったことで有名だ。

これだけでも肌のコンディションを良好に保ってくれる理由になるが、さらにシルクの成分はその70%をフィブロインと呼ばれるタンパク質でできている点も見逃せない。厳密に言えば人と同じ組成ではないも

### 美肌と健康を支える「ファイブプロテイン」

シミュレーションが少なく、潤いと弾力のある肌、美肌は女性にとっての永遠のテーマ。美しく健康な肌は男女を問わず誰もが持たたいと思っ

成分のフィブロイン。フィブロインは、35・5%がグリシン、27・7%がアラニンという特異なアミノ酸組成になっている。

ともに分泌量が減少する。このため新陳代謝が低下して細胞分裂に時間がかかるようになり、その結果、内蔵の働きが衰え、筋肉が少なくなり、血液も若さを失う。肌の老化はこのような全身的な老化の結果として、シワ、タルミ、クスマ、シミなどが現れる。私たちのキレイや健康を後押ししてくれる成長ホルモンに必要なのがアミノ酸。

天然のタンパク質がそうであるように、シルクのフィブロインも非常に多くの分子が結合した高分子と呼ばれる物質で、そのままと分子量が大きいため、吸収性を高めるためには低分子にする必要がある。そこで、安全に低分子化ができる酵素分解法で、アミノ酸を低分子にしたペプチド状にして吸収しやすくしているのも特徴。

### 信頼性の高い「食べるシルク」が登場

「いつまでも若々しく元気でいたい！」

昔からシルクが優れていることは知られていたが、日本では食べるという習慣はほとんどなかった。「健康の改善に有用かもしれない」と昭和60年代、シルク研究の権威でシルクの研究に一生を捧げた東京農工大学の故平林潔名誉教授は、数々の実験を経て研究を発表。同教授の指導のもと、シルクフィブロインを分子レベルで人間が吸収しやすいように分解し、パウダー状に仕上げたのが始まりとされている。

通常の食生活のみでは十分な健康美を維持するのが難しくなってきた現代、サプリメントや健康栄養補助食品への注目度は高まるばかり。しかし、健康食品はあくまでも食べ物であり、永く続けていくものだから、安全なものでなければならぬ。長い研究過程を経てシルクの有用な力そのものといえるフィブロインは、若々しく元気でいたい人の人生を、しっかりサポートしてくれる数少ない自然素材の一つといえるだろう。